

「沖縄コロニー大賞」を照喜名通さんへ

沖縄コロニーの創立 40 周年を記念して、自立への努力や社会、文化、芸術等の活動が顕著な障害者にスポットをあてることを目的に創設された「沖縄コロニー大賞」が今年で 13 回を迎えました。

11 月 17 日(月)に最終選考が行われ、難病患者の就労支援や相談業務等に携わる照喜名通さんに贈呈することが決まりました。12 月 9 日、障害者の日に贈呈式がとり行われます。

照喜名さんは自身もクローン病という難病と闘いながら、「NPO 法人アンビシャス」を立ち上げ、難病患者の支援センターとして、難病患者の就労支援や、相談事業、情報提供、難病患者の会の支援などを行っています。

また、独自の雇用創出への取組として、首里城公園内での売店経営や、商品開発にも積極的です。特に、照喜名さんがオカリナからヒントを得て 6 ヶ月の試行錯誤の上、考案した「沖縄指笛」は年間 4000 本以上も売れるヒット商品になっています。

これまで、「障害者のひたすらな姿に光をあてる」事を目的に行ってきた本賞では、過去 12 回の受賞者は全て障害のある方でした。今回、難病患者である、照喜名さんが選ばれた背景には、選考委員長の高嶺豊氏(琉球大学法文学部教授)含む 5 名の選考委員からの、「障害手帳を持たなくとも、ニーズのあるところへ支援するべき」とのご意見を頂いたことがあります。

照喜名さんの活動は、社会起業として事業を確立し、難病患者の雇用を生み出しています。また、社会に難病の方の状況を広く周知する大きな役割を果たしています。これを機に多くの方に活動を知っていただき、他の難病患者への励みになればと願います。

(総務課 崎山峰子)